

ルワンダ

1. ルワンダ、キガリの社会状況

ルワンダでは、予期せぬ経済発展やキガリ市内への急速な人口流入と、これまでの北部水力発電ダムの過度利用によるダムの減水で発電量を減らさざるを得なくなったこと、おそらく隣国コンゴ民主共和国との関係悪化により隣国からの電気供給が減少していることから、今年1月に悪化し始めた電気供給がいまだに改善されず、1962年の独立以降、初の深刻な電力危機となっています。国民の90%が住む農村部では、もともと電気供給がほとんど皆無でインパクトは小さいですが、交通事故で停電中の病院に運ばれた方が、蝟燭のもとで処置を受けている間に亡くなるケースも起きています。キガリ市内では、商店や事務所等は発電機無しでは仕事が出来ない状態で、大きな燃料代の負担、長時間使用により頻繁に故障する発電機の修理代が負担となっている他、発電機を購入する余裕の無い小規模商売等にはとっては存続の危機となっています。またキガリ市は、上層階の建築を続けながら営業をしている集合店舗建築や、町中に存在していたコンテナを改造したり、ベニヤ板で作ったキヨスク(売店)を一掃してしまいました。都市計画に基づく対応ですが、やはり小規模の商売が大きな影響を受けています。また、国会特別委員会が幾つかの人権団体や国際NGO等を分離主義、虐殺イデオロギーを持つ恐れがあると言明し、市民社会及び国際社会からは市民社会への抑圧であるという批判と危惧の声があがっています。

2. プロジェクトの進捗

戦災未亡人を含めた貧しい女性のための洋裁訓練は、5年目に入り、第5期生23名が2004年1月から6月まで訓練を受講しました。残念ながら4名が訓練受講に必要な支援を得られずドロップアウトしましたが、他の19名は、ドレス、ショーツ、シャツ、女性用ジャケット、スカート、キテンガというアフリカスーツの縫製技術を習得し揃って訓練を修了しました。各訓練生とも訓練への意欲が高く、非常に熱心に取り組みました。また2003年末までに51名の修了生を出した洋裁訓練では、事業の途中評価のためにこれまでの訓練修了生にグループインタビューを実施しました。参加できた19名中10名がミシンを入手しており(53%)、11名が何らかの仕事に結び付けて収入を得(58%)、15名が習得した洋裁技術を使った経験を持っている(79%)ことが判明し、非常に厳しい経済状況の中でも技術訓練が収入創出に結びついていることが分かりました。また、小さな収入でも家計の助けになっている他、これまで市当局から追い払われながらも路上で野菜や果

物を買うことしか出来なかったのに、自身の技術で収入を得ることが出来るようになったのはとても大きな進歩だ、と感謝されました。彼ら自身、技術を持つことがこれほど大きな自信と誇りにつながるとは予期していなかったようです。しかし、マイクロクレジットのような手段が見つからない現在、訓練修了生が約1万円の足踏みミシンを購入するには、夫を含めた家族全員で資金を集めなければならず、容易ではありません。

昨年度、1期3ヶ月間で合計52名が修了したバナナ工芸訓練は、地球市民財団から継続支援を受け、今年5月に2年目の訓練を開始しました。昨年の受講生や指導者からの、10種類のグリーティングカードだけでなく、額に入れるためのA4サイズの絵や、ベニヤ板に貼り付ける絵など中上級技術の訓練も必要であるという要請を受け、今年は初級クラスと上級クラスを開設しました。5月13日に7名の初級クラスが開始、5月25日に8名の上級クラスが訓練を開始しました。初級クラスは昨年度と同様にバナナ樹皮の選別、処理やかみそりの使い方、型紙の作り方、写し方といった基本から取り組み、10種類のカードデザインを学びます。上級クラスは、A4サイズの絵の各部分を小さな紙の上で作る練習をした上で、A4サイズの絵を作成します。また、昨年度の訓練修了生は訓練所に来て販売用のカード製作をすることを奨励されており、毎日7-8名の修了生が訓練所に来てカード製作に励んでいます。カードが売れた時は修了生の収入になるため、習得した技術が収入につながることを実感でき、またこれを目の当たりにする現在の訓練生にとっても大きな刺激と励みになっています。バナナ工芸訓練は、文字を読めないでも習得でき、高価な道具や機械を必要としないため、初等教育さえ修了できない貧しい家庭の女性には最適で、受講希望者が順番待ちをしているほどです。

2年目を迎えた奨学基金は、105名の孤児が制服と靴、学用品、授業料を受け取り、無事に小学校に通い今学年を終了しようとしています。来年度から初等、中等教育ともに1月開始の学年度に変更されるため、今年は9月30日に学年が終了した後休暇になります。また今年に入って社会福祉を担当する行政機関が地方行政省からジェンダー省に移動になり、数多く存在する孤児院の管理、淘汰への取り組みが行われています。ARCで支援する孤児の住む2つの孤児院のうち、AMIDORも整理されることになり、100名以上いた孤児たちは5月にキガリ市キチュキ口区内の別の孤児院に移されました。新しい孤児院はカトリック修道院運営で、広大な敷地に立派な建物と医療スタッフを

有する孤児院です。孤児たちは環境の変化とマリアンとのお別れで困惑している様子ですが、時間とともに新しい環境に馴染んでいくことでしょう。また一旦ストリートチルドレンになりかけた子供たちは、特別な指導が必要なため、キガリ市内の「神様の子供ストリートチルドレン・センター」に移されました。他に ARC では、非常に貧しくとも遠縁の親類のいる子供たちは、孤児院にいるよりも親類に引き取って貰い、家族ごと支援することができないか模索中です。

3. 抱負

ルワンダに駐在して早いもので、もうすぐ3年になります。最初は大変の一言でしたが、洋裁技術訓練も軌道に乗り、新しく始めたバナナ工芸訓練も順調に進み、奨学金も沢山の方のご理解のお陰で 105 名の孤児を支援するこ

とが可能となりました。それぞれ小さなプロジェクトですが、受益者と直接接する機会から彼らの喜びを感じることができ、それを助成団体や支援者の方に直接お届け出来ないことが大変残念です。

また、なかなか安定しないこの大湖地域では、紛争が散発し、常に次の紛争の可能性を孕むという不安定な状態で、経済社会状況も非常に悪く、その中で以前の紛争のトラウマを抱えながら希望を持って生きることが如何に困難か、と思いき知らされることばかりです。最近は市民社会活動への制限も厳しくなり、自身も希望をくじかれがちですが、地道に彼らと活動を継続することで、人々にとって数少ない希望を支えることが出来れば、と思います。また、日本の方にもこれらの状況をより理解して頂けるよう努めてゆきたいと思えます。(報告：高 美穂)

セミナーレポート 外務省・JICA 共催講演会「アフリカの現状と AU の役割」要約

講師：ジニット・アフリカ連合 (AU) 平和安全保障委員 2004 年 9 月 8 日 於国際協力総合研修所

現在、AU (African Union・アフリカ連合) は、アフリカ 53 力国からなる地域機関であり、その前身は、OAU (Organization of African Unity・アフリカ統一機構) である。アフリカ地域は、国内紛争、難民、HIV など簡単に解決を見ることが出来ない多くの問題を抱えている。AU は、このような事態に共同して問題の解決、開発を行う機関である。

AU は、政府と市民により構成され、Gender バランスの重視・Business for all Africa・他国への関心・他国の問題へ介入し、早期解決を図る・国家への監視体制を強化 (国家として、AU への責任を持ち役割を果たせない場合は制裁を加える)・最大公約数にもとづく政策決定を行うことを原則としている。また、目標として、平和と安定・民主主義と人権の擁護・主権の確保・アフリカ大陸の統一・社会開発・経済コミュニティー間の調整をおいている。

AU は、無介入といういままでの常識を否定し、地域として協力し国の問題への解決し、アフリカ大陸の統一を図ろうとしている。大陸全体での平和構築のために働いていることがわかる。また、以上のことを現実化させるには、ローカル・コミュニティー・国家レベル・外部からの援助など多方面からの協力が必要となる。

より市民に近づいた事により、人々の声が届くことで、人々の要望・平和と安定・民主主義と人権の尊重・開発・オーナーシップが明確となる。平和・安定・開発・民主主義はもちろん、オーナーシップを挙げたことはアフリカの国々が自ら問題を解決する責任感の表れではないだろうか。もちろん、他国によるサポートは必要であるが、現在ある国内の問題に国として責任を持って解決する姿勢は大きな進歩である。今までのように他国や INGO から与えられたもので解決していくのではなく、問題解決プロセスの中心となり、日本や NGO をパートナーと

して計画をサポートしてもらえる関係を望んでいる。

AU において一番の焦点は、やはり平和と安全への政策ではないだろうか。そのため、紛争の管理、武装解除 (小型兵器・地雷・化学兵器/核兵器)、テロ対策を行い、紛争をコントロールし、復興事業を円滑に進め、パートナーとの関係構築し、社会開発を進め、紛争再発を防止する。武装解除、特に小型兵器は、アフリカの紛争において大規模な破壊へつながるものであるため、ただ、兵士から武器を回収するのではなく、兵士の社会復帰へも力を入れていかななくてはならない。DDR などのプロジェクトを行うためにも強いパートナーシップが重要となる。AU 内には、平和と安全のための待機軍、紛争予防・管理・解決の為の早期解決システム、各国の意見を取りまとめる委員会が設けることで、国際機関と違い、地域機関として、緊急事態に素早く対応が可能になる。

AU は、着実に進歩しており、今までのアフリカ各国の他国任せの体質を一新し、AU が介入することで国が国としての責任を果たせる体制を作ろうとしている。地域機関として特徴を活用し、平和と開発の為に活動しているが、アフリカの貧しい国々が集まっている為、日本などの援助国や NGO から国が国として発展出来るような援助を望み、強固なパートナーシップを必要としている。AU は、今までの方法に対し革命を起こすことで AU をアピールし、パートナーシップを得てきたのではないだろうか。このような前向きな姿勢がなければ平和や開発はありえないであろう。AU は、アフリカの紛争問題に対し日本の協力を強調し、より近づいた関係を築くことで両国間の関係が強固なものとなるとしている。それに伴い、援助団体等は、よりニーズに合った支援が出来るようになる。AU は、平和を実現する為の挑戦を続けている。

(報告：入原 稚奈)

アフリカ平和再建委員会 (Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN)

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1四谷サンハイツ511

Tel/Fax : 03-3351-0892 E-mail : info@arc-japan.org ホームページ <http://www.arc-japan.org>